

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070101120
法人名	社会福祉法人 わかうら会
事業所名	わかうら会
訪問調査日	平成20年 9月 1日
評価確定日	平成20年 9月 22日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101120		
法人名	社会福祉法人 わかうら会		
事業所名	わかうら会		
所在地	和歌山市田野180 (電話)073-445-0808		
評価機関名	NPO法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】(平成20年 8月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 9年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成20年8月19日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	79歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	月山病院、橋本病院、浜の宮病院、遠藤皮膚科、松田眼科、和中歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な和歌浦湾を見下ろす高台に建ち、隣接している母体法人の運営する施設の4階と廊下でつながり、入居者は施設内へ自由に行くことができる。隣接施設では多種のサービスが行われ、相互の連携体制でホームの入居者も施設の中の一員として全体で見守られている。人間関係を大切にコミュニケーション作りに努め、皆が仲良く和気あいあいと生活している。漁師町の地域との関わりも深く、住民参加の施設行事やボランティアの訪問の機会も多い。今年は地域資源を活用した外出支援を目標に掲げ、希望するグループ毎に外出の機会を増やす取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	その後の職員会議において職員の目線で検討を重ね、幾つかの改善点をより具体化し、グループホーム単独の職員会議の設置・日常の経過を記録に残す・意見箱の設置等、改善の成果を多くに残している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえ、運営者・管理者・職員で、取り組んでいる具体的な内容を検証しながら自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所の様子・行事・外部評価等、報告が主であるが、家族メンバーが多く、入居者本人の参加も有るので、要望を聞きながら今後のサービスに活かせるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に設置した意見箱の利用はほとんどないが、家族の面会が多いのでその際に声を聞いたり、運営推進会議での家族の要望を集約して職員会議にはかりながら、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人の施設が地域での津波の避難所になっている。施設の多機能ホールでの多様な催し、施設での夏祭り等に住民が参加し、そこにグループホームの入居者も加わるので、日頃から地域との交流が行われている。また、近くへ散歩の折に、知人と立ち話をする等日常的な交流もある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)
 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳を尊重し、人間関係を大切にしながら温かな家庭環境作りの理念に加え、地域と関わりを持ち、地域の一員としての生活支援を理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は毎月の職員会議や毎朝のミーティングで、理念の実践に向け話し合い、常に理念を念頭に置きながら日々の支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接施設の多機能ホールでは地域住人も参加する様々な活動が行われ、ホームの入居者も参加したり、住民がホームにも立ち寄ってくれる。また、散歩時に知人と立ち話をするなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム単独のスタッフ会議の設置、記録による申し送り等、昨年外部評価での改善点を具体化し、スタッフ会議で管理者と職員が再三話し合った。全員が改善に向けて取り組んだ結果、目に見えた成果となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバー構成は、理事長・管理者・支所長・入居者・家族(4名)で、年3回のペースで開かれている。事業所からの報告が主な内容となっている。		運営推進会議の内容を工夫し、更にメンバーに一般住民にも加わって貰い、活発な意見交換の場となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は地域包括支援センターや市の関係窓口と連携を取りながら、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は月1回以上あり、訪問時に本人の様子や報告を口答で行っている。金銭管理については担当者より書面にて定期的に報告されている。また、緊急時は電話連絡をしている。		隣接施設での多様な行事への参加やホーム内・外出での様子・運営推進会議の議事録等々を、「便り」などで家族に送ることも大切である。面会も多いので、家族会の設置にも期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の改善点によりホームの玄関に意見箱を設置したが利用はほとんどない。面会時や運営推進会議で家族の生の声を集め、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は同一敷地内のため異動後も会えるが、入居者にも事情を伝え、不安な人には引継を長くしたりして配慮している。また、職員の配置希望を優先し、働きやすい職場環境の中で、入居者・職員の間関係づくりを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は毎月行われ、職員が毎回交代で参加してミーティングで報告している。外部研修は経験の古い人から受講するシステムである。日々の疑問点はミーティングで相談しながら解決している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より管理者がグループホーム連絡会に参加し、情報収集・交流に努めている。昨年12月に、他ホームとの相互研修を行い、意見交換が出来たことにより、サービスの質の向上に繋がった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接施設のショートステイを経由するなど、できるだけいきなりの入居にならないよう段階を経ている。また、本人が納得した上で入居となり、入居後に不安が見られたら家族と連絡を密にし、訪問を増やしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が忙しい時、本人から自発的に手伝ってくれることもあり、他の入居者の喜びそうな事や介護技術まで教えてくれたりもする。また、言葉使いや長年の知恵なども教わりながら一緒に生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に声をかけじっくり話しているうちに、思いや相談事が聞け、本人の希望に沿った支援が行えている。本人から聞けない時は、家族から昔の話を聞いたり、表情から本人の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	夜間のトイレ誘導回数の希望を聞いたりしながら、日頃から本人の声を拾うようにして、本人にとってより良い介護計画作成の為に職員間で、日々話し合っている。家族の意見は面会時に聞いて計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1年毎に作成し、3ヶ月毎のモニタリングを行っている。また、日々の記録を参考にして生じた変化に対応して計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携による医療体制が完備されている。隣接施設でのリハビリ・デイサービスでおこなわれているカラオケ・趣味の教室などへの自由な参加を支援している。また少人数での外出支援等、柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医とも連携できる体制だが、現在は本人・家族の希望で、全員が隣接施設内の診療所の医師を主治医としている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、本人・家族に「看取り」について聞き取りをし、ホームの医療方針を説明している。その後、重度化に合わせて、看取りの指針に沿った体制を全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を第一として、言葉使いには十分に気をつけている。各記録物は事務室の棚に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	隣接施設内へ自由に行くことができる。個人の意志を尊重して、本人のペースでやりたい事をしてもらえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設から毎食運ばれてくるので、入居者は盛り付け・配膳・片付けを手伝っているが、買い物や食事作りは行っていない。職員は食事介助があるので、後で別室で休憩をかねて弁当を食べる。月一回のおやつとお誕生会は皆で手作りする。		高齢者にとって食事は特別な意味を持ち、グループホームで職員と一緒に作り、一緒に食べる意義は大きい。入居者と職員が調理する場を設けたり、職員も一緒に食事ができるよう工夫するなど、今後に期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日でき、時間帯は決めていないが、午後からの希望が多い。ゆったりした浴室で、二人ずつゆっくり入りながら入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設施設での多様な行事に自由に参加したり、訪問した友人との交流を楽しむことができる。リビングの生け花、雑巾掛け等、本人の出来ることで楽しみが持てるよう支援している。入居者同士仲が良く、お互い支え合う場面も多く見られる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年度目標に、地域資源を利用した外出支援を掲げている。週一回の買物、以前の居住地へのドライブ、お花鑑賞、市の行事への参加等、外出の機会を増やしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	母体法人の施設全体で見守りが行えているので、鍵は掛けていない。ベランダや庭へも自由に出られるので、入居者も落ち着いた雰囲気となっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接施設が津波の際の地域の避難所になっており、住民と一緒に避難訓練をしている。年一回の火災訓練もあり、入居者に声かけをしながら緊急の事態にも対応できるよう訓練している。食料備蓄は1～2日分されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の管理栄養士による栄養バランスのとれた食事を提供し、嗜好調査も行いながら、適切な栄養管理を行っている。毎日の食事量や水分補給の記録が詳細になされ、個人に沿った支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングは開放感があり、落ち着いた空間となっている。手造りの品々があちこちに飾られ、入居者による生け花が人を和ませる。ガラス戸の向こうに菜園や海が望め、自然にふれながら日々の生活を楽しんでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした室内にタンス・本棚・椅子など、使い慣れた家具が置かれ、お気に入りの写真や手芸品を飾り、また花の鉢を育てたりと、その人らしい部屋作りとなっている。		